

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂農林高等学校

学校番号 37

1 学校教育目標	①人や自然を愛する豊かな情操、次代を生き抜く健やかな心身を形成する。 ②確かな学力とコミュニケーション能力を身に付け、自他の課題に主体的に挑戦する。 ③産業人として必要な素養を身に付け、地域社会や産業界に貢献できる。
----------	--

2 評価する領域・分野	◇「教育課程・学習指導」
-------------	--------------

3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	令和2年度学校アンケートより ・教え方や説明がわかりやすいなど、学習指導に関すること全般・・・下降気味である。→授業改善が必要である。 令和2年度めいわく調査・心のアンケートより ・授業中の迷惑行為のために嫌な思いをしている。→授業規律を守る指導が必要である。
--------------------------------	---

4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1. ICT環境の活用と「わかる授業」の実施。 (1) 公開・研究授業の実施と職員研修による授業の改善活動。 (2) チームで取り組み、授業規律の確立を目指す。 2. 新学習指導要領の実施に向けた教科毎のカリキュラムの作成
--------------------	--

5 重点目標を達成するための校内における組織体制	授業を軸に、各部との連携を図り、チームで規律を確立する。 外部組織への積極的な研修活動（総合教育センター、企業）
--------------------------	---

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
-------------------	---------------------

(1) 職員研修や研究・公開授業の実施 (2) 授業規律のルール提示と定着を図る (3) ICT機器の活用から授業改善を図る (4) 令和4年度のカリキュラムを作成する。	(1) 職員の意識（参観率）と生徒の評価（授業アンケート）は向上したか。 (2) 各分掌・担任と連携し、授業規律の定着を図る指導を行うことができているか。めいわく調査の結果は改善されたか。 (3) ICT機器を活用した授業が行われたか。 (4) 学校の実情に合わせて作成することができたか。
--	--

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
--------------	--------	-------

①職員研修と公開授業の実施とその参加率	①研修の実施・参観の感想の収集	A B C D
②守るべき授業規律は生徒に浸透しているか	②各分掌・担任と連携し、心のアンケートなどの結果を参照	A B C D
③ICT機器の授業への積極的な活用	③ICTを利用した授業改善は行われているか。	A B C D
④新カリキュラムを協議し完成させる。	④十分な協議のもと、カリキュラムの作成が行われたか。	A B C D

11 成果・課題	○一人一台タブレットにより授業や家庭でのICTの活用状況が飛躍的に向上した。感染症予防対策のためのオンライン授業を円滑に行うことができた。 ○コロナ禍で公開授業が実施できない状況であるが、Webexをつかった研修など実施することができた。 ○新カリキュラムについては学科の特性に合った編成を行うことができた。 ▲授業規律の提示を行いつつ、教員相互の共通理解を図っているが、授業規律アンケートの結果から、授業中の私語に対して困難さを抱えている生徒がいることが分かった。	総合評価 A B C D
----------	--	------------------------

12 来年度に向けての改善方策案	・来年度も「授業改善」に力を入れ、引き続きICTを利用した授業づくりを推進していく。 ・授業規律については、教育相談、各種アンケートの結果や、HRTからの聞き取りを大切にし、生徒への浸透や学校全体としての指導の徹底を図ることや、生徒へ自律を促す働きかけを行っていきたい。
------------------	--

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

1 学校教育目標	①人や自然を愛する豊かな情操、次代を生き抜く健やかな心身を形成する。 ②確かな学力とコミュニケーション能力を身に付け、自他の課題に主体的に挑戦する。 ③産業人として必要な素養を身に付け、地域社会や産業界に貢献できる。	
2 領域・分野	生徒指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	昨年度の問題行動は16件、自転車事故が4件であった。また、コロナ禍における休校期間があったにもかかわらず、年間欠席者数が約1230人、遅刻者数が約400人と令和2年度目標数よりかなり多い数字であった。また、2月に実施しためいわく調査では、授業での迷惑行為を感じている生徒が増加している。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	「豊かな人間関係を築き、地域社会人として考え行動し、自らの夢に挑戦できる姿」の具現に向け、継続的な生活指導を図る。 ①命を守り生活を守る ・交通安全の徹底（道路交通法を厳守する） ・生活安全の徹底（スマホ・ネットの使い方・情報モラル） ②生徒の自立を促す生徒指導 ・社会的自立：元気な挨拶・時間を守る・身なりを整える ・精神的自立：物事の善悪を判断できる・思いやりの心・高い人権意識	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	学科・学年会との連携及び教育相談組織の活用	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① いじめ・人権に反する行動を見逃さない。規範意識の向上と問題行動の未然防止に取り組む。 ② 挨拶を中心とした生徒の自主的な活動。 ③ 交通ルールの遵守を徹底させ、自転車等の安全運転を身につけさせる。 ④ 教育相談を機能させ、生徒個人および集団のよりよい学校生活を実現させる。（SCの活用） ⑤ スマホ、ネットなどの情報モラルの徹底。 ⑥ 社会的自立を目指し、基本的な生活習慣を確立させる。	① 「いじめほどの学校でも、どの子にも起こり得る」と認識し、危機感を持って未然防止・対応に組織的に取り組む。問題行動事案件数10件以下 ② 生徒会・MSリーダーズ等を中心とした活動と取り組み状況が活発になっているか。 ③ 交通事故件数0を目指す。 ④ 相談の存在が充分広報できたか。 ⑤ 情報モラル違反事案0を目指す ⑥ 欠席総計（600回以下）遅刻総計（300回以下）身だしなみの変容	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 今年度のいじめ認知件数16件、認定件数9件 問題行動による特別指導7件（12月現在） ② 12月よりMSLあいさつ活動を再開 ③ 交通事故件数12件（12月現在） ④ カウンセリングを希望する生徒が増加 ⑤ 情報モラル違反なし ⑥ 欠席総数1223回、遅刻総数433回（12月現在）	① いじめ認定件数、問題行動件数 ② MS Lあいさつ活動実績 ③ 交通事故件数 ④ SCの活用状況 ⑤ 情報モラル違反件数 ⑥ 欠席総数、遅刻総数	A (B) C D A (B) C D A B (C) D (A) B C D (A) B C D A B C (D)
11 成果課題	いじめについては、認定件数9件と昨年との3倍となった。些細な生徒間のトラブルをいじめとして対応せざるを得ないケースが増加している。 また、問題行動のうち喫煙が3件あり、薬物乱用防止と併せて取り組んでいかなければいけない課題である。 遅刻総数が増加したことと、遅刻指導が十分行えていない現状がある。	
12 来年度に向けての改善方策 ・いじめの認知・認定に関する職員間の情報共有をしっかりと行う。 ・交通事故発生時の対応の仕方を、生徒一人一人にしっかりと理解させる。 ・基本的な生活習慣を確立させ、欠席・遅刻総数を減少させる取り組みを強化していく。		

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂農林高等学校

学校番号 37

1 学校教育目標	①人や自然を愛する豊かな情操、次代を生き抜く健やかな心身を形成する。 ②確かな学力とコミュニケーション能力を身に付け、自他の課題に主体的に挑戦する。 ③産業人として必要な素養を身に付け、地域社会や産業界に貢献できる。		
2 評価する領域・分野	◇進路指導部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	学科試験が行われない就職先を選択したり、総合型選抜入試等で早期に安易に進路先を決めてしまう生徒が少なからず存在している。高い能力を持ちながら、早期から具体的な進路目標を持たないため、受験準備が遅れ成果に結びつかない例がある。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	「社会的・職業的な自立に必要な能力や態度」を育てるために、キャリア教育を踏まえた進路指導の充実を図る。 ①あらゆる機会を通して、基礎学力を確実に身に付けさせる。 ②主体的で意欲ある進路活動に結びつかせるための「選抜ポイント」意識させ、将来の自分の姿を具体的に思い描かせる指導や機会を設ける。 ③配置されたタブレットを利用した進路指導を工夫する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学年会、学科、各分掌と協力・連携して実施する。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
①あらゆる機会を通して、基礎学力を身に付けることの重要性を認識させる。(全学年) ②個々に応じた具体的な進路目標を持たせるために、将来の自分の姿を具体的に思い描かせる機会を設定する。(1年生) ③学年末には具体的な進路目標を持たせることができるようにする。(2年生) ④個々に応じた進路指導を充実させ、安易な進路を選択することのないよう努める。(3年生) ⑤挨拶や言葉遣いの指導を通して、進路決定における「挨拶」の重要性を意識させる。	①個別の進学指導、SPI学習会、面接指導等を成果に結びつけることができたか。 ②到達目標を明確にし、進路に関する思考・表現活動に働きかけたか。 ③「選抜ポイント」を意識させながら、より具体的な進路目標を持たせることができたか。 ④適性、学力、家庭環境など様々な観点から判断し最も望ましい進路選択をさせることができたか。 ⑤昨年度より挨拶ができる生徒が増加しているか。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・基礎学力を身に付けさせる取り組み、個別の学習指導が行われたか ・個々に応じた進路指導がなされ、適切なアドバイスを行うことができたか ・「挨拶」の重要性の意識付けを行えたか	・小テスト、基礎力診断テストの再検討が行われた。 ・概ね望ましい進路選択をさせることができた。 ・学校全体で取り組めた	A B C D A B C D A B C D	
11 成果・課題	・新型コロナウイルスの影響を受けた時期もあり、計画した進路指導に支障も生じたが、概ね滞りなく実施することができた。 ・面接指導は学年、学科の協力により担任を中心に計画的になされていた。 ・進学のための学習指導は、学科試験を受ける生徒が少ないこともあり、一部の教科での個別指導が行われた。 ・安易に「出停扱い」で休んでしまう生徒の増加が懸念される。		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案 タブレットを常時生徒に管理させる体制に入ったのは9月以降であったため、求人票の検索など具体的に進路指導に活かすことはできなかった。来年度は年度当初より有意義な利用を検討したい。			

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂農林高等学校

学校番号 37

1 学校教育目標	校訓「至誠勤労・質実剛健」及びスローガン「いのちを育み そして いのちから学ぶ」の下、夢の実現を目指す生徒一人ひとりの良いところを見つけ、励まし支える教育を推進し、広い視野と高い志をもって地域社会に貢献できる人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇農場部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・本校に入学できて良かったと思っている生徒が多く（昨年度アンケート71%）、本校の専門の学習への興味関心が高い生徒が多い。 ・保護者の本校の農業教育に対する理解も高く、好意的な評価をしていただいている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験実習の安全 実習環境の改善 ・専門学習の充実 プロジェクト活動の活性化と資格取得指導の計画的実施 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長を中心として各学科（学科職員全員）で取り組む。 ・農場組織の農場安全教育部の活動を推進し、農業科職員全員で連携を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 危険個所と事故防止策の確認 (2) 備品・薬品管理の徹底 (3) 地域や外部と連携したプロジェクト活動 (4) 計画的な資格取得とアグリマイスター認証者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 実験実習中の安全指導について見直しと改善が図れたか (2) 備品と薬品の管理は適正にできたか (3) プロジェクト活動が地域や外部と積極的に連携して実施できたか (4) 計画的に資格取得ができ、アグリマイスター認証者が増加したか 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ①事故防止に向けての定期的な注意喚起、実習環境の整備 ②備品台帳の整備、薬品簿の記載と管理 ③各科におけるプロジェクト活動での積極的な地域連携 ④各科での計画的な資格取得指導、生徒の取組意識向上指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①実験実習における事故や怪我の有無 ②備品の登録の整備状況 ③地域との連携活動の内容と効果 ④アグリマイスター顕彰制度の顕彰内容と認証者数 	<ul style="list-style-type: none"> A B C D A B C D A B C D A B C D
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実験実習が安全に行えるよう定期的に注意喚起を促し、実習環境の整備に取り組んだが、怪我の発生をなくすことはできなかった。職員の意識をさらに高め、事故や怪我を防止できる雰囲気と環境づくりが必要である。 ・登録備品の整理に取り組んだが、まだ不完全である。 ・外部と連携した活動は、コロナの影響を大きく受けたが、各科で工夫した取組により、新しい連携活動も増え、プロジェクト活動に活かされた。 ・アグリマイスター取得者はのべ58名で過去最多であった。しかし、学科によって取組に大きな差があった。 	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・実験実習における事故や怪我をゼロにできるよう、環境整備・身だしなみ指導・実習前の注意喚起指導を強化する。 ・備品台帳の整備を継続し、写真台帳の作成にも取り組む。 ・地域の他、大学や研究機関等と積極的に連携し、専門の学びを深める。 		

総合評価

A **B** C D

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月25日

【意見・要望・評価等】

- ・生徒一人一人の内面力の向上が素晴らしいと思います。先生方の努力にも感謝します。
- ・課題研究については十分に成果が得られていますが、継続的な取り組みが多く、今後の新しい活動に期待しています
- ・農林業に対する職業観の醸成を進めていかなければならないと思います。そのための具体的な取り組みに期待します。
- ・学校全体の協力体制が十分に取られていると感じます。さらに多くの活動を共有していくことができるとよいと思います。
- ・ICTを用いた教育をさらに進め、効果的な教育内容が実現することができると思います。